

いま いま
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2016.10.11

NOW IS.

Vol.
6

毎月11日発行

ナウイズ

in
名取



「名取北釜ファーム」
自慢の農地
「あまり農業を使わないので、水がきれいなんです。水路にはメダカも住んでいるんですよ」と話す鈴木社長。



収穫したてのチンゲンサイ
「とても丁寧に扱っていて、驚きました」と名取さん。



みずみずしい野菜たち
名取北釜ファームでは、希少な西洋野菜も栽培。首都圏のレストランなどに直接販売しています。



関上さいかい市場

「漁亭浜や」でセリ鍋
関上地区で営業していた「漁亭浜や」。昨年からセリ鍋を提供しています。



セリの根の天ぷら



なんでもない日常を
穏やかに生きる
ありがたさ。

RI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI NOW IS NATORI



▼ 今回訪れたまち ▲
名取市は、仙台市の南東に隣接し、太平洋沿岸に位置しています。現在人口約7万7千人、市内には仙台空港があります。米や野菜などの農産物のほか、カーネーションの栽培も盛んです。

PROFILE
名取 裕子 (なとり ゆうこ)

1957年8月18日、神奈川県出身。1976年ミスコンで準優勝し芸能界入り、1977年テレビ小説『おゆき』(TBS系)でヒロインに大抜擢。『京都地検の女』(テレビ朝日系)など人気シリーズで主演を務める名女優。東日本大震災後は、チャリティー公演やイベントなどにも参加していた。

執筆 沼田佐和子

「土と太陽と海の恵みで生かされているんだと、感じられる旅でした。たくさんの痛みを抱えながら、それでも穏やかに豊かに生きているんだと地元の方々の勇気と努力に頭が下がります。なんでもない日常を過ごす幸せな時間が、これからはこの地で続いていけばいいと思います。」

高いために綿菓子のような雲が流れる秋の一日。稲が金色のことうべを垂れる田舎道から、この日の旅はスタートしました。「こんな穏やかな場所、あんなことがあったなんてね」。車の窓から外を見ながら、名取裕子さんはつぶやきます。

名取さんは、20年ほど前に「名前つながら」で名取市愛島地区の分譲住宅のCMに出演したことがありました。震災が起きたときは、銀座でホスターの撮影中だったという名取さん。テレビに映し出される被災地の様子に言葉が失ったと言います。「大変なことが起こったと頭では分かっていたけど、あまりのことに現実だと思えませんでした。雪の中寒いだらうと思っことはできて、あの場で人々が感じているだろう水の冷たさや風の寒さ、恐ろしさを感じる事ができない。同じ日本で大変なことがおきているのに自分にはい

られなかった方が多くいたのです。そうした中、活発になったのが農地を集約し、大規模化する動きです。名取北釜ファームの鈴木社長は増田地区で被災。奥さまやご親戚を亡くしましたが、このまま終われないと一念発起し、海水に浸かった農地を地権者29人から借用をはじめました。今では、小松菜や雪菜などの葉物を中心に、144棟のハウスを運営しています。

料理が得意な名取さんは新鮮な野菜が実る畑を見学し、大興奮。「しっとりして、猫の耳みたいな手触り」。農業をほとんど使わず、過剰な洗浄もせずに出荷しているという説明を聞き、「葉っぱの一枚まで、慈しんで育てているんですね」と心を動かされた様子でした。「日本の農業は素晴らしいって実感できません。地域の方の働く場にもなっ

つもの日常、そういう状況に、言いようのない恐ろしさを感じました。」

宮城に甚大な被害があったと知り、自分が昔CMに出演していた愛島地区の住宅地のことも心配に思いました。幸いにも愛島地区の被害は小さかったと聞きましたが、同じ市の海側では、こんなに被害があったんですものね。」

最初の訪問地、名取市関上地区の日和山で、震災直後の写真を見ながら、悲痛な表情を浮かべます。日和山は、高さ6mほどの小高い山ですが、津波はこの山の頂上をやすやすと越え、約8mの高さまで押し寄せました。本当に、想像を絶する事が起きたんですね。」

新しいかたちの農業に引き継がれる手間ひま

次に向かったのは、「名取北釜ファーム」。震災後、沿岸部の農家では、離農が相次ぎました。もともと高齢化が進んでいたときに震災が起き、農家を続け

ているんでしょう？笑顔で働いてらして、ゆったりした豊かさを感じました。」

旅の締めくくりは、関上さいかい市場の「漁亭浜や」で近年注目されている名取名物の「セリ鍋」と「赤貝のにぎり」を味わいました。仙台市の居酒屋で人氣に火が付いたセリ鍋ですが、使われているセリは名取で作られたものがほとんど。テーブルに並んだ山盛りのセリに驚いた様子で名取さんでしたが、最後はセリの根の天ぷらも追加で注文。赤貝のにぎりも「これを食べるためだけでもみんな来る価値があるわ！」と笑顔で舌鼓をうちました。

「土と太陽と海の恵みで生かされているんだと、感じられる旅でした。たくさんの痛みを抱えながら、それでも穏やかに豊かに生きているんだと地元の方々の勇気と努力に頭が下がります。なんでもない日常を過ごす幸せな時間が、これからはこの地で続いていけばいいと思います。」

新しい農業と
新名物をめぐる名取の旅。
名取裕子さんと歩く秋の一日。

「Newspaper Pick-Up」名取市

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



平成23年3月15日の記事には、震災発生から3日がたち、海水がすっかり引いた名取市閑上地区に、自宅の状況を確認しようと訪れていた住民の言葉が掲載されました。「避難先で頑張っている5歳の息子におもちゃの一つでも（持ち帰ろう）と思って来たが……」覚悟はして来たのだけど、言葉もない。住民たちは皆、消えた家を前に言葉を失いました。

沿岸部の閑上地区と下増田地区の津波被害が大きく、死者923名、住宅被害5千棟以上という壊滅的な被害を受けた名取市。閑上小・中学校が使用不能となるなど、教育施設や文化施設も大きな被害に見舞われました。

がれきの山を前に言葉を失う



名取市と気仙沼市の復興への歩みが紹介された平成28年7月30日の記事には、閑上小中一貫校の話題が取り上げられました。前日に行われた安全祈願祭と起工式には、関係者約70人が出席。山田司郎市長は「学校の建設は閑上の復興の象徴だ。一日も早く完成させたい」と話しました。

現在は名取市内陸部の校舎を間借りしたり、仮設校舎を建てたりして授業を続けている閑上小・中学校。一貫校として再建される学校は、屋上につながる外階段を2カ所造り、備蓄倉庫を設置するなど、災害時に閑上地区の防災拠点となるよう配慮しています。平成30年2月完工、同年4月の開校を目指しています。

閑上小中一貫校として再建

©河北新報社 ※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。



被災直後の名取市
無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成28年9月)の名取市の様子がご覧いただけます。被災地の移り変わりをご覧ください。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から
COCOAR2に対応していない端末もごさいます。



(閑上日和山)

現在の名取市

撮影地点
名取市閑上

AR

で見える
定点観測
Look at Miyagi

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

NOW IS. / Inter-View

N A T O R I

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

01

この人がこの町を盛り上げてます！

地域に根ざした大学として いつまでも寄り添い続けたい。

被災者の生活が変化してもボランティアを続けます。

名取市の西側に位置する尚綱学院大学。海までは車で30分ほどの場所にあり、震災は学生たちにとっても他人事ではありませんでした。学生たちは、自発的に避難所や仮設住宅でボランティア活動を始めます。その活動をきっかけに、平成24年6月にボランティアステーションが正式に発足しました。

「私は震災から丸3年がたったころから、仮設住宅でボランティア活動を始めました」。渋谷佳代さんは大学4年生。ボランティアステーションの中心的なメンバーとして活動しています。

住民の転居にもない、活動の場も、従来の仮設住宅に復興公営住宅が加わりました。住む場所が変わっても、「みんなを声を掛け合いながら、若い人もお年寄りも過ごしやすい街をつくらなければいけない」と思っています。私が卒業しても、次の人が活動を引き継いでもらえるように、頑張ります。



尚綱学院大学
ボランティアステーション

渋谷 佳代 さん

●問い合わせ先
TEL.022-381-3484



活動を知ってもらうため新聞も発行しています。

「若い人がくると元気になる」と住民の方。



名取市土木課

中田 和宏 さん

平成27年4月から石川県より名取市に派遣



ゆぐんだガードレールや縁石を整備した道路。

「名取市は気候がすごくいい。住みやすい街だと思います」と中田さん。

希望して2年目。役に立つ仕事にやりがい。

「道路の整備は、地域の発展を支えています。誇りとやりがいをもって、日々仕事しています。」

中田和宏さんは、平成27年に派遣職員として、石川県から名取市にやってきました。仕事は、震災で壊れた道路の復旧事業や、震災の影響で遅れていた道路事業を進めることです。橋の建設やインターチェンジの新設など、名取市の道路整備事業は、現在急ピッチで進んでいます。遅れた分を取り戻して発展させようという意気込みを強く感じます。若手の私も大きな事業に携わるため、仕事は忙しいですが、やりがいもあり、充実した毎日を送っています。

中田さんは、震災が起きた年の4月に石川県庁に入庁しました。同じ年の5月、新入職員の研修の一環として、石巻市へボランティアに訪れたそうです。「初めは言葉が出なかつたです。これが自然のやることなのかと。平成27年

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫

02
この人がこの町を盛り上げてます！

インフラは復興の要。地域の方々から信頼される道路を。

に名取市を訪れた時には、瓦礫などの撤去は完了していましたが、被災した地域の復興はまだこれからだと感じました。1年間復旧事業に携わり、現在担当している仕事を最後までやり遂げたいと、2年目を希望しました。

「現場に出たときに『いい道路をつくってくれてありがとう』という言葉をかけてもらえることもあります。人の役に立つ仕事をしているな、と思うと、やはりうれしです」。地元の人と話すのが楽しいのひとことと中田さん。「来たばかりのころは、方言やイントネーションの違いで苦労しましたが、少しずつ慣れてきました。道路をはじめとしたインフラ整備が復興事業の要であると考えているので、地域の方々からも信頼されるような道路整備を行いたいと思っています。」

現在、名取市の土木課には、ほかの自治体から派遣された職員が7人います。全国力を借りながらインフラ整備が全速力で進められています。

宮城の「いま」を伝えるポスターが完成しました。

復興に向けて取り組む方々を紹介しています。



「NPO 法人ピースジャム」(気仙沼市)
～復興の街で働く。新しい命と生きる。～



「フィッシャーマン・ジャパン」(石巻市)
～どんな津波も俺たちの心意気は流せない。～



「花と緑の力で3.11プロジェクト」(仙台市)
～花と木が育むコミュニティと復興の萌芽。～



「震災語り部の会・ワッター」(亶理町)
～「逃げる」。その一言を語り継ぐ。～

全国の皆さまに宮城県の「いま」をお伝えするため、「宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。」をコンセプトに、被災地での復興に向けて取り組む方々の姿を、その決意や想いととも表したポスターを作成しました。

ポスターは全国の自治体、関係団体等に送付し、掲出していただく予定です。

《ポスター送付をご希望の方へ》

ポスター送付をご希望の方は、下記問合せ先まで電話、Fax、メールにて連絡願います。

記載事項:①ポスター名(団体名)②ポスターサイズ(B1・B2・B3のいずれか。※B3のみ横型)③必要枚数 ④用途 ⑤送付先 ⑥連絡用の電話番号(またはメールアドレス)

※注意事項

- ・在庫の状況により、ご希望に添えない場合があります。
- ・原則、折った状態での発送となります。
- ・送料は無料ですが、折らない状態での発送や、重さが2kgを超える場合は、送料をご負担していただきます。
- ・営利目的や、ポスターの趣旨と関係のない目的での使用は禁止します。

宮城県 震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号
☎022-211-2443 / Fax: 022-211-2493
email: fukusuif1@pref.miyagi.jp

ポスターの詳細はみやぎ復興情報ポータルサイト内ブログに掲載しています。

STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

「名取」裕子さんと「名取」市を訪問しました。震災でたくさんものを失った名取市ですが、新しい芽があちこちで育っています。震災後に生まれた「名取北釜ファーム」では、地域の方がニコ

ニコ働く姿が印象的でした。農業の私たちは変わっても、地域のあたたかさは変わりませんね。ポスターが完成しました。雨も降らず良い撮影ができ、お天道様と、制作

チームにいる晴れ男)に感謝。被災地で生きる方々の「いま」の姿を少しでも感じ取っていただけたら、と願っています。



ビニールハウスが連なる北釜地区

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,553人 | 行方不明者数 1,235人 | 平成28年8月31日現在 宮城県危機対策課調べ

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

ココロハコプロジェクト
みやぎフェスタ
MEGA WEB

日時/11月5日(土)・6日(日)
11時~17時
場所/MEGA WEB(東京都
江東区青海1丁目3-12)
入場/無料
内容/
●復興に向けた取り組み紹介
●伝統工芸品・物産販売
●海産物の振る舞い【5日のみ】
●ゆるキャラ大集合
●芸能人ショー
●バーチャル工場見学
●トヨタ自動車復興支援活動紹介等
●県自動車産業振興室
☎022-211-2533
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fjdousha/

トヨタ自動車グループによる被災地支援活動の一環で、復興に向けた取り組みを紹介するほか、宮城の物産販売や海産物の振る舞いなど、宮城の魅力を感じられるイベントです。入場は無料なので、気軽にのぞいてください。

NEWS 02 「みやぎフェスタ」@MEGA WEB開催

対象設備	補助額
①太陽光発電システム	5万円/件
県内産パネル	5万円/件上乗せ
②蓄電池	10万円/件
③エネファーム(民生用燃料電池)	15万円/件
既築住宅	3万円/件上乗せ
LPGガス利用	3万円/件上乗せ
寒冷地仕様	3万円/件上乗せ
停電対応	3万円/件上乗せ
④ゼロエネルギー住宅(ZEH)	30万円/件

※④は上記①~③と重複して申請することはできません。
※①~③の合計補助額は30万円が上限です。
※申請様式は下記よりダウンロードできます。
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/saisei/smartenergy-h28.html

●株式会社東北建築センター(受付窓口)
☎022-346-1795
●県再生可能エネルギー室
☎022-211-2655

NEWS 01 環境にやさしく災害に強い住まいづくりを支援します！
県では、環境負荷が少なく、災害時にも電気や熱を確保できる住まいの普及を図るため、蓄電池やエネファーム等の導入費用の一部を補助しています。この補助金は、県内の住宅に左表の設備等を導入した方を対象としています。受付は12月28日(水)まで。詳しくはお問い合わせください。



日時/11月3日(木・祝)9時~14時
場所/名取市民体育館前広場
●ふるさと名取秋まつり実行委員会
☎022-384-2111(内線403)

NEWS 03 新鮮な秋の味覚が勢揃い！「ふるさと名取秋まつり」
毎年文化の日に開催され、市民の楽しみとなっている「ふるさと名取秋まつり」。目玉は地元で採れた農林水産物の展示販売で、新鮮な野菜や魚介類など被災した沿岸部の味覚も集合。収穫祭のような雰囲気味わうことができます。ほかにも縁日コーナー、商工業商品即売会、元気なとり工業展、フリーマーケットの出店、ステーションショーや抽選会等盛りだくさん。子どもに人気のミニ消防車や名取市マスコットキャラクター「カーナくん」のコーナーもあり、家族で楽しめるイベントです。

NOW IS / MIYAGI MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

SNSでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



各SNSの検索窓で

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS取材チームによるブログで情報を発信します。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiyaagi.jp>

NOW IS.

防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme 6 衛生・健康

避難所生活が長引くと、心身ともに疲れが出てくるもの。

衛生面、健康面に気を配ることが大切です。

ライフラインが復旧しない中でも、快適・健康に過ごすために、
一人ひとりが最低限すべきことを、覚えておきましょう。

トイレの使い方



感染症の人とは
トイレを分けて使おう。

トイレが不衛生な状態になると、感染症の
拡大につながります。後に使う人のことを考
えてきれいに使うのは基本マナー。トイレ
が複数ある場合は、健康な人と感染症の人
のトイレを分けることも有効な対策です。

食中毒の予防



使い捨て手袋やラップは
炊き出し調理の必需品！

避難所での食事は、加熱処理をすることが
基本。ただし、熱を加えても死なない菌もあ
るので、調理を担当する人は必ず使い捨て
の手袋を着用しましょう。また、おにぎりを
にぎる時は、ラップを活用すると便利です。

感染症の予防



手洗いや除菌、
マスクの着用は必須！

基本的なことですが、感染症予防に有効な
のは手洗い・うがい・マスクの着用。なかで
も、災害時に貴重な水を使わずにできる手の
除菌とマスク着用は必須！除菌ジェル・シー
トやマスクは、自分で用意しておきましょう。

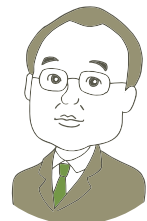
取材協力：東北大学災害科学国際研究所 児玉 栄一 教授

防災コラム Vol.6

- ★リスクを下げるという考え方に！
- ★誰でもできることをみんなでやる！
- ★健康管理はいつもの習慣に！

避難所生活で食中毒や感染症のリスクを
ゼロにすることはできなくても、下げる
ことはできます。そのための対策にはい
ろいろありますが、大切なのは誰もが簡
単にできることをみんなで実行するこ
と。衛生・健康管理は避難した時に急に
できるものではありません。日常生活に
習慣として取り入れていくことで、もし
もの時にも役立ちます。

児玉 栄一 教授
東北大学災害科学国際研究所



災害医学研究部門災害感染症学分野に所属。東北
メディカルメガバンク機構地域医療支援室・副室長
として、被災地の医療支援事業にも携わる。

NOW IS. **6**
vol.6

昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年10月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government